

資料2

感染症定期報告に関する今後の対応について

平成16年度第5回
運営委員会確認事項
(平成16年9月17日)

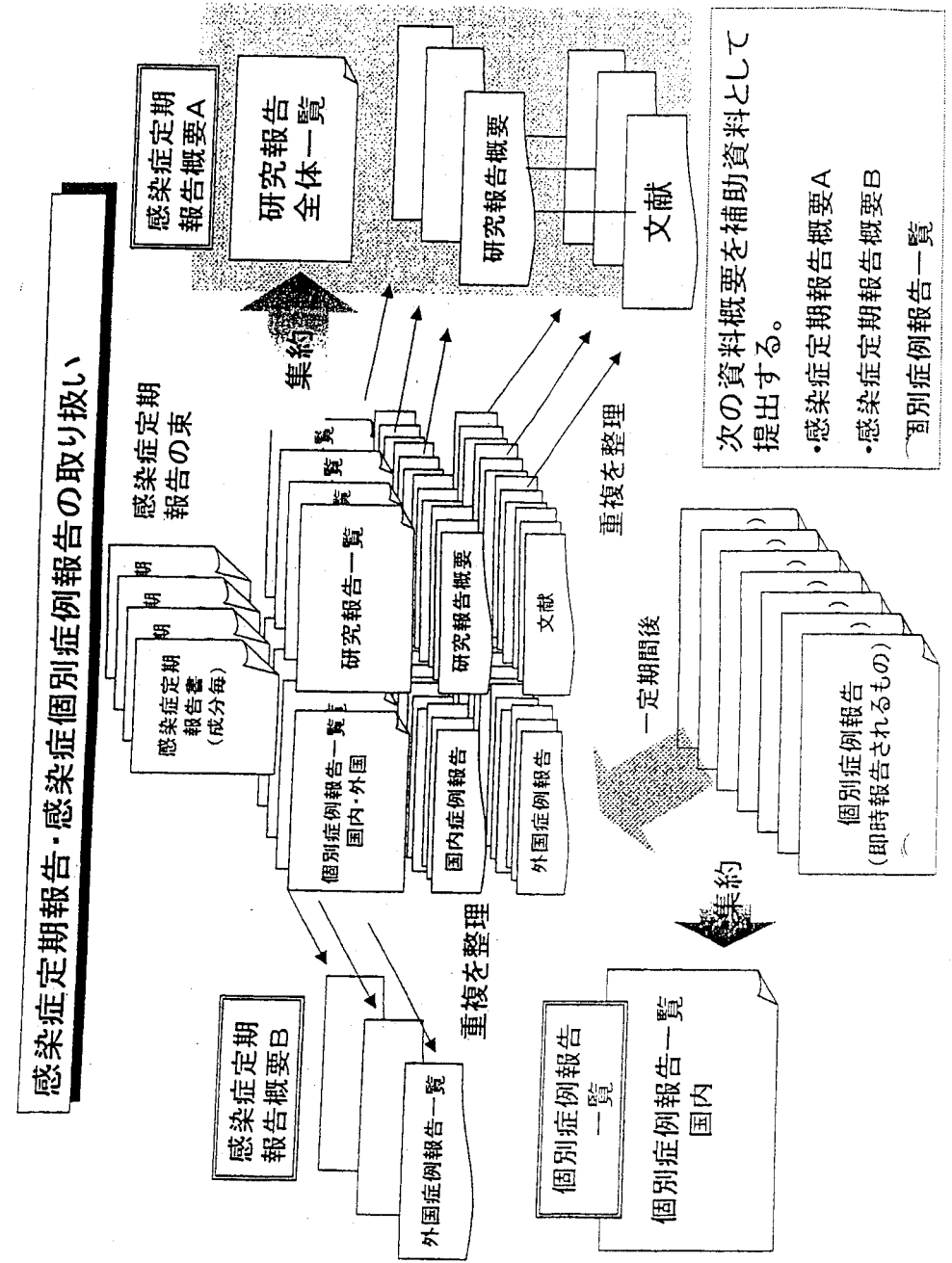
1 基本的な方針

運営委員会に報告する資料においては、

- (1) 文献報告は、同一報告に由来するものの重複を廃した一覧表を作成すること。
- (2) 8月の運営委員会において、国内の輸血及び血漿分画製剤の使用した個別症例の感染症発生報告は、定期的にまとめた「感染症報告事例のまとめ」を運営委員会に提出する取り扱いとされた。これにより、感染症定期報告に添付される過去の感染症発生症例報告よりも、直近の「感染症報告事例のまとめ」を主として利用することとする。

2 具体的な方法

- (1) 感染症定期報告の内容は、原則、すべて運営委員会委員に送付することとするが、次の資料概要を作成し、委員の資料の確認を効率的かつ効果的に行うことができるようにする。
 - ① 研究報告は、同一文献による重複を廃した別紙のような形式の一覧表を作成し、当該一覧表に代表的なものの報告様式(別紙様式第2)及び該当文献を添付した「資料概要A」を事務局が作成し、送付する。
 - ② 感染症発生症例報告のうち、発現国が「外国」の血漿分画製剤の使用による症例は、同一製品毎に報告期間を代表する感染症発生症例一覧(別紙様式第4)をまとめた「資料概要B」を事務局が作成し、送付する。
 - ③ 感染症発生症例報告のうち、発現国が「国内」の輸血による症例及び血漿分画製剤の使用による感染症症例については、「感染症報告事例のまとめ」を提出することから、当該症例にかかる「資料概要」は作成しないこととする。ただし、運営委員会委員から特段の議論が必要との指摘がなされたものについては、別途事務局が資料を作成する。
- (2) 発現国が「外国」の感染症発生症例報告については、国内で使用しているロットと関係がないもの、使用時期が相当程度古いもの、因果関係についての詳細情報の入手が困難であるものが多く、必ずしも緊急性が高くないと考えられるものも少なくない。また、国内症例に比べて個別症例を分析・評価することが難しいものが多いため、緊急性があると考えられるものを除き、その安全対策への利用については、引き続き、検討を行う。
- (3) 資料概要A及びBについては、平成16年9月の運営委員会から試験的に作成し、以後「感染症的報告について(目次)」資料は廃止することとする。



感染症定期報告概要

(平成21年7月28日)

平成21年3月1日受理分以降

- A 研究報告概要
- B 個別症例報告概要

A 研究報告概要

- 一覧表（感染症種類毎）
- 感染症毎の主要研究報告概要
- 研究報告写

研究報告のまとめ方について

- 1 平成21年3月1日以降に報告された感染症定期報告に含まれる研究報告（論文等）について、重複している分を除いた報告概要一覧表を作成した。
- 2 一覧表においては、前回の運営委員会において報告したものの以降の研究報告について、一覧表の後に当該感染症の主要研究報告の内容を添付した。

感染症定期報告の報告状況(2008/3/1~2009/5/29)

血対ID	受理日	番号	感染症(PT)	出典	概要	新出文献No.
90130	2009/4/24	90139	A型肝炎	Vox Sanguinis 2009; 96: 14-19	加熱及び高静水圧の物理的不活化処理法で4株のA型肝炎ウイルスの不活化を行ったところ、それぞれの処理はHAV感染性を3~5log10の範囲で低下させた。また、血液製剤のウイルス汚染に対する安全性を評価するのにともなっても適した株は、耐熱性のKRM238であった。	1
90103	2009/3/26	81038	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	スロヴェニアで、HBs抗原陰性で抗HBc抗体陽性、抗HBs抗体低力陽性、HBV DNA陽性の濃厚赤血球と新鮮凍結血漿を輸血された59歳の患者が4ヶ月後に急性B型肝炎を発症した。また同じ供血血液由来のRCCの輸血を受けた71歳の患者も7ヶ月後にHBV感染を認めた。2例ともドナーと同じ配列を有するジェノタイプDが感染していた。潜在性B型肝炎ウイルス感染者の血液は抗HBs抗体が陽性にもかかわらず、感染性を有した。	
90130	2009/4/24	90139	B型肝炎	J Med Virol 2008; 80: 1880-1884	1971~2005年の35年間に虎ノ門病院に来院した急性HBV感染患者153名および慢性HBV感染患者4277名について5年間毎のHBVジェノタイプ/サブジェノタイプを調べた。急性感染患者数は35年間で増加し続けた。慢性感染患者は1986~1990年が最大であった。ジェノタイプは急性感染患者と慢性感染患者で大きく異なった(A、B、C型:28.6%、10.3%、59.5% vs 3.0%、12.3%、84.5%)。最近では外国のサブジェノタイプB2/Baが増加する傾向がある。	
90154	2009/5/27	90197	B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	供血時には血清検査陰性であったが、その後HBV DNAが検出された供血者由来の血液成分を輸血された2名の免疫不全患者について調べた。受血者1はHBVワクチン接種を受け、抗HBsキャリアであったが、赤血球輸血後13ヵ月で急性B型肝炎を発症するまで他のHBVマーカーは全て陰性であった。供血者とHBVシークエンスが一致したため、輸血関連感染と確認された。受血者2は血小板輸血を受けたが、感染していなかった。	
90140	2009/4/27	90151	B型肝炎	Transfusion Med. 2008; 18: 379-381	日本における、不顕性HBV感染者(HBsAg陰性)からの輸血によるB型肝炎感染に関する報告。	2
90130	2009/4/24	90139	B型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 174-180	HBV DNA陽性かつ表面抗原(HBsAg)陰性オカルトHBV感染の検出感度を上げるために、HBV DNAとHBsAgを同時に濃縮する新規方法を開発した。二価金属存在下でpoly-L-lysineでコートした磁気ビーズを使用し、ウイルス凝集反応を増強させ、ウイルスを濃縮する方法により、HBV DNAとHBsAg量は、最高4~7倍に濃縮された。本方法により、EIAとHBV NATの感度が上昇し、HBsAg EIAを用いてオカルトHBV感染者40名のうち27名を検出することができた。	
90130	2009/4/24	90139	B型肝炎	日本小児感染症学会第40回総会・学術集會 E-20	母親がHBsAg陰性かつ家族内に患者以外のHBVキャリアが存在する成人及び小児HBVキャリアである7家族を対象とし、HBV全遺伝子解析に基づく分子系統樹を用いて感染源を検索したところ、3家族で父親以外の感染源の可能性があり、祖母からの感染は分子疫学的に感染経路を証明できた。	3
90130	2009/4/24	90139	C型肝炎	第70回日本血液学会総会 2008年10月10-12日	再生不良性貧血の54歳女性で、初回輸血前検査はHCV抗体陰性、HCVコア蛋白陰性であったが、複数回輸血後、HCVコア蛋白が陽性化したため、選別調査を開始した。保管検体の個別NATにより、1検体からHCV-RNAを検出した。患者と献血者のHCV Core-E1-E2領域の塩基配列が一致した。日本で20フルNAT導入後、初めて確認された輸血によるHCV感染症例である。	
90130	2009/4/24	90139	C型肝炎	Clin Infect Dis 2008; 47: 931-934	ニューヨーク市のEast Harlemのクリニックから18歳以上で血中HCV PCR陽性の吸引用麻薬常習者38名の鼻汁検体および吸引に使用したストローを入手し、血液およびHCV RNAの存在の有無を調べた。鼻汁検体28例(74%)、ストロー3例(8%)から血液が検出され、鼻汁検体5例(13%)、ストロー2例(5%)でHCV RNAが検出された。HCVウイルスの鼻腔内伝播のウイルス学的妥当性が示された。	

90130	2009/4/24	90139	C型肝炎	日本血液事業学会第32回総会	1999年7月~2008年3月までにNATで検出された111本のHCV-RNA陽性検体のGenotype解析の結果、Genotype 2aが最も多く、1bと2bがほぼ同数であった。	4
90130	2009/4/24	90139	E型肝炎	AABB Annual Meeting and TXPO 2008	2005~2007年に北海道で実施したフルNATによるHEV-RNAスクリーニングの結果、献血者の約1/8,300はHEV-RNA陽性であった。ほとんどの献血者は動物肉臓を摂取しており、無症候性であったが、ウイルス血症は数ヶ月間持続した。	5
90130	2009/4/24	90139	E型肝炎	Clin Infect Dis 2009; 48: 373-374	急性白血病の33歳の男性がE型肝炎を発症し、HEV遺伝子検査の結果、重複する時期に同じ病棟に入院していた別のE型肝炎患者から感染していたことが示唆された。	6
90103	2009/3/26	81038	E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	2004年9月20日に39歳日本人男性から献血された血液はALT高値のため不適当とされ、HEV陽性であった。当該ドナーの選別調査の結果、9月6日にも献血を行い、HEV RNAを含有する血小板が輸血されていた。当該ドナーと親戚は8月14日にブタの焼肉を食べており、父親は9月14日に急性肝炎を発症し、E型肝炎で死亡した。他に7名がHEV陽性であった。レシピエントは輸血22日目にALTが上昇し、HEVが検出された。	
90130	2009/4/24	90139	E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 2568-2576	日本全国でALT高値のため献血不適となった献血者の血液検体に、HEVマーカー(HEV-RNA及び抗HEV抗体)が認められ、いずれのマーカーとも東日本の法が西より高かった。	7
90100	2009/3/19	81013	E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl.1): 282-283	2005年の中国の4都市(Beijing, Urumchi, KunmingおよびGuangzhou)における供血検体のHEV感染率を調べた。その結果、ルーチン検査(抗HCV、抗HIV1/2、HBsAg、梅毒およびALT)陰性供血者の約1%は抗HEV IgMまたはHEV Ag陽性で、HEV感染の可能性があった。また、ALTスクリーニングは中国のHEV感染血排除に役立つ可能性があった。	
90116	2009/3/30	81068	HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	米国の供血者のヘルペスウイルス8(HHV8)ゲノム陽性率について、高感度定量RT-PCR法(検出限界8コピー)より684名の検体を分析したがHHV8ゲノムは検出されず、健康な供血者におけるHHV8陽性率は非常に低い。	8
90116	2009/3/30	81068	HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	ヨーロッパにおいて報告された人口100万人当たりの新規HIV感染率は、2000年以降ほぼ2倍となった。2007年は、当該地域53カ国中49カ国から合計48,892例のHIV感染が報告され、エストニア、ウクライナ、ポルトガルとモルドバ共和国で感染率が最も高かった。	9
90145	2009/5/1	90184	アメリカトリパノソマ症	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-3	米国で2007年から開始された供血者に対するT. cruziスクリーニング検査の結果、2007年1月29日~2008年1月28日の陽性率は1/30,000であったが、受血者には明白な感染症例はなかった。最も陽性率が高い地域はフロリダ南部であった。	10
90145	2009/5/1	90184	アメリカトリパノソマ症	Transfusion 2008; 48: 1862-1868	スペイン、カタルーニャ血液銀行は、高リスク供血者におけるシャーガス病スクリーニング計画を実施し、供血者集団でTrypanosoma cruzi(T. cruzi)感染の血清学的陽性率を調査した。その結果、全体の陽性率は0.62%(1770名中11名)で、最も陽性率が高かったのはボリビア人であった(10.2%)。陽性者11名中1名は、シャーガス病流行地域に数年間滞在したことのあるスペイン人であった。非流行国の高リスク供血者にT. cruziスクリーニング検査を実施する必要がある。	

90130	2009/4/24	90139	インフルエンザ	ProMED-mail20080825.2648	タミフル耐性型の「通常の」季節性インフルエンザが急速に拡大しており、南アフリカでは今年の冬(2008~2009年)のインフルエンザに効果がないおそれがある。WHOのデータによると同国でH1N1株に感染した107名に関する検査の結果、全員がタミフルに耐性の突然変異株を保有していた。2008年4月1日から8月20日に南半球の12カ国のH1N1インフルエンザ感染者由来検体788例中242例(31%)がタミフル耐性に関係があるH274Y突然変異を有していた。	
90130	2009/4/24	90139	ウイルス感染	BuaNews online 2008年10月13日	南アフリカ、ヨハネスブルグで3名の死者を出したウイルスは、暫定的に西アフリカのラッサウイルスに近い、齧歯類媒介性アレナウイルスであると特定された。国立感染症研究所と保健省は共同で、このウイルスが体液を介してヒトからヒトに感染するため、「患者の看護に特別な予防的措置が必要である」との声明を発表した。3名の死因を確定するには更なる検査が必要である。	
90136	2009/4/27	90147	ウイルス感染	PNAS 2008: 105: 14124-14129	新規ヒトカリシオウイルス7株についての報告。	
90125	2009/4/23	90119	ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008: 105: 14124-14129	インフルエンザ様疾患の小児の呼吸分泌物中から、汎ウイルスマイクロアレイ法を用いて、初めてヒトカリシオウイルスを同定した。系統遺伝学的分析から、このウイルスはTheilerのネズミ脳脊髄炎ウイルス亜型に属し、Saffoldウイルスと最も近縁であった。また、胃腸疾患患者群498名から得た751例の糞便検体中6検体からカリシオウイルスが検出された。	
90129	2009/4/23	90123	ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	2008年10月初旬に南アフリカでアレナウイルスによる感染のアウトブレイクが同定された。9月12日から10月24日までに計5例が報告され、5例中4例が死亡し、1例は入院中である。死亡した4例では発病から死亡まで9~12日間であった。塩基配列分析より、ユニークな旧世界アレナウイルスが原因であることが明らかとなった。現在のところ新たな疑い症例はない。	
90117	2009/4/1	90003	ウイルス感染	ProMED-mail20090129-0400	ユンガンウイルスは、マウスにおいて胎児死亡や奇形を起こすことが知られているが、疫学的データから、ヒトにおいても子宮内胎児死亡に関連していることが示唆された。	11
90130	2009/4/24	90139	ウイルス感染	ProMED-mail20090218.0669	ナイジェリアでは、2008年1月から12月にかけて、229人のラッサ熱感染疑い患者が報告され、30人が死亡している。また、2008年12月~2009年1月に、感染疑い患者及び感染確定患者はそれぞれ60%及び80%増加している。	12
90147	2009/5/20	90188	ウイルス感染	ProMED-mail20090402.1272	サンパウロ奥地において2009年2月より黄熱が流行しており、その中で母子感染が確認された。初の黄熱の母子感染報告である。	13
90148	2009/5/22	90189	ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	南アフリカとザンビア出身者の最近の死亡例3例はアレナウイルス科のウイルスが原因であることが、NICDおよびCDCで行われた検査の結果明らかとなった。詳細な分析が継続されている。一方、南アフリカでは患者と密接に接触した看護師が感染し、入院中である。	
90147	2009/5/20	90188	ウイルス性脳炎	CDC/MMWR 2009: 58: 4-7	米国ウエストバージニアで妊婦における初めてのラクロス脳炎ウイルス(LACV)感染が見つかり、その後、分娩時の臍帯血からLACV抗体が検出され垂直感染が疑われたが、出生後6ヶ月までLACV感染兆候は見られていない。親が子の血清検体採取を拒否しており感染は確定できていない。	14

90117	2009/4/1	90003	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080828.2697	インド東部のウッタルプラデシュ州で小児を死亡させている原因不明のウイルスは、インド保健省の専門家らにより急性脳炎症候群と診断された。同州の13の地区では、数週間におよそ800人の患者が発生し150人が死亡したと報告され、その数は増加すると見られている。血液検査で日本脳炎陽性となった患者は5%以下であった。日本脳炎とエンテロウイルスとの混合感染の可能性について調査中である。	
90116	2009/3/30	81068	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	2008年9月に、イタリアで何年かぶりにヒトのウエストナイルウイルス(WNV)脳炎が2例報告された。1例目はFerraraとBolognaの間に住む80歳の女性、2例目はFerraraに住む60代後半の男性であった。また、ウマ6頭とトリ13羽でWNV感染が確認された。WNV髄膜炎の積極的サーベイランスプログラムが開始され、当該地域で供血者スクリーニング用NATが導入された。また、当該地域に1日以上滞在したことのある供血者を28日間供血延期する措置がとられた。	
90099	2009/3/19	81012	エボラ出血	OIE (December 23, 2009)	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで始めてエボラレストンウイルスが確認され、2009年1月には当該農場の労働者少なくとも1名で抗体陽性を示した。同ウイルスのブタからヒトへの感染を示す初の報告。	15
90136	2009/4/27	90147	エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。	16
90130	2009/4/24	90139	クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2009: 15: 265-271	孤発性CJD(sCJD)と医学的処置との関連性を解明するために、日本における1999~2008年の期間にCJDサーベイランス委員会に登録された患者について分析した。その結果、sCJD発症前に施行された医学的処置によりプリオン病が感染した証拠はみつからなかった。	17
90116	2009/3/30	81068	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	オーストリアの39歳男性が感覚異常などの神経症状で入院後、急速に悪化し、4ヶ月後に死亡した。組織学的検査で海綿状変化、神経細胞脱落及びグリオシスが、免疫組織化学的検査でびまん性シナプティックな異常プリオンの沈着が見られ、CJDと診断された。また患者のPRNPは129Met-Metであった。患者は22年前まで死体由来のヒト成長ホルモン(hGH)製剤治療を受けており、医原性リスクが認められるため、孤発性若年性CJDの可能性も否定できないが、WHO基準により確定医原性CJDと分類された。	
90117	2009/4/1	90003	コレラ	CDC/Travelers Health 2009年2月4日②	ジンバブエ保健当局からのコレラアウトブレイクの報告。2008年8月26日から2009年1月31日までに61,304例の感染疑い、3,181例の死亡。また、ボツワナ、モザンビーク、ケニア、マラウイ、ナミビア、ナイジェリア、ギニアビサウ及びトーゴといった周辺国からも発生が報告されている。	18
90100	2009/3/19	81013	チングクニヤウイルス感染	Transfusion 2008; 48: 1333-1341	2005年から2007年に、チングクニヤウイルス(CHIKV)はレユニオン島で大流行し、供血は2006年1月に中断された。大流行中のウイルス血症血供の平均リスクは、10万供血あたり132と推定された。2006年2月の最流行時におけるリスクは、10万供血あたり1500と最高であった。この期間中、757000人の住民のうち推定312500人が感染した。2006年1月から5月の平均推定リスク(0.7%)は、CHIKV NAT検査による血小板供血のリスク(0.4%)と同じオーダーであった。	
90100	2009/3/19	81013	Dengue熱	Transfusion 2008; 48: 1342-1347	高力価の培養 Dengue ウイルス セロタイプ2をアルブミンおよび免疫グロブリンの各種製造工程(低温エタノール分画、陽イオン交換クロマトグラフィー、低温殺菌、S/D処理およびウイルスろ過)前の検体に加え、各工程での同ウイルスのクリアランスをVero E6細胞培養におけるTCID50アッセイおよびRT-PCRで測定した。その結果、全ての工程が不活化/除去に有効であることが示された。	

90100	2009/3/19	81013	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1348-1354	2005年9月20日～12月4日のプエルトリコの米国赤十字におけるすべての供血15621検体中のデングウイルス(DENV) RNAをTMA(transcription-mediated amplification)法で測定したところ、12検体(0.07%)がTMA陽性であった。4検体は、RT-PCR(DENVセロタイプ2および3)陽性であった。RT-PCR陽性4検体中3検体でウイルスを培養することができた。TMA陽性12検体中1検体がIgM陽性であった。1:16に希釈した場合は5検体のみTMA陽性であった	
90112	2009/3/27	81052	バベシア症	Clin Infect Dis 2008; 48: 25-30	FDAはBPDR(生物学的製剤逸脱報告システム)により、2005年に2例、2006年に3例、2007年に3例の輸血によるバベシア症感染報告を受けていた。受血者は輸血後2.5～7週で症状が進行し、2ヶ月以内に死亡した。	19
90103	2009/3/26	81038	バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	血漿交換、コルチコステロイドおよびコリンエステラーゼ阻害剤による治療を受けていた重症筋無力症患者が、アルブミンを用いた血漿交換を行った2週後にバルボウイルスB19感染による赤芽球減少症と診断された。アルブミン由来感染かどうかを確定することはできなかったが、アルブミンなどの血液製剤によるB19感染を除外することはできない。	
90145	2009/5/1	90184	マラリア	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-4	オーストラリア赤十字は2005年7月から、マラリア感染のリスクのある供血者に対し、従来の医療歴・渡航歴の収集から、リスクへの暴露を特定した時から最低4ヶ月間のマラリア抗体のスクリーニングを実施する代替戦略を導入した結果、既存の供血者に由来する輸血可能な製剤の製造効率は著しく向上し、輸血伝播マラリア症例の報告もなかった。	20
90145	2009/5/1	90184	マラリア	Am J Trop Med Hyg 2009; 80: 215-217	1997年より韓国軍はヒドロキシクロキシン及びプリマキンを用いた予防的化学療法を実施し、マラリア患者の急増を防ぐことができたが、調査登録患者484名中2名にクロキシン耐性Plasmodium vivaxを確認した。	21
90129	2009/4/23	90123	マラリア	CDC/MMWR 2009; 58: 229-232	近年、5番目のマラリア原虫として、サルマラリアであるPlasmodium knowlesiのヒトへの感染例がマレーシア及びその周辺において多数確認されており、人畜共通感染症の病原体として新興している可能性が示されている。	22
90145	2009/5/1	90184	マラリア	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1434-1436	2007年にマレー半島でフィンランドの旅行者が、通常はサルにおけるマラリアの原因となる二日熱マラリア原虫に感染した。二日熱マラリア原虫はヒトマラリアを引き起こす第5のマラリア原虫種として確立された。この疾病は生命を脅かす危険があり、臨床医と臨床検査技師は旅行者においてこの病原体を更に注意すべきである。	
90145	2009/5/1	90184	リケツチア症	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	米国ミネソタ州の68歳男性が、2007年10月12～21日に手術後の輸血を受け、敗血症および多臓器不全をきたした後、10月31日に発熱を伴う急性血小板減少症を発現し、11月3～5日の血液検体からPCR及び抗体検査でアナプラズマ症感染が確認された。血液ドナーの1人にA. phagocytophilum陽性がPCR及びIFA検査で確認され、血液ドナーに感染源が確認された初の事例となった。	
90145	2009/5/1	90184	リケツチア症	JAMA 2008; 300: 2263-2270	中国安徽省でヒト顆粒球性アナプラズマ症(HGA)と症状が一致する患者は、2006年10月30日に発症し、11月5日に死亡した。確定診断はされなかったが、発症する12日前にダニに刺されていた。11月9-11日に、この患者の血液および呼吸器分泌物との直接接触によると疑われる症例9例が報告され、HGAと確定診断された。中国におけるHGA症例の初めての報告である。	23
90097	2009/3/26	80995	リケツチア症	ProMED-mail 20080728.2306	オランダ・ブラバント州の公衆衛生局が行った調査でQ熱の症例報告数が急激に増加し、2008年7月21日付けで491症例が報告されている。感染症管理センター長によると、実際の感染者数は報告された症例数の10倍であると思われる。2007年まではQ熱はオランダではほとんど存在しなかった。	

90153	2009/5/25	90196	リケツチア症	日本細菌学会第82回総会 P2-182	Anaplasma phagocytophilumによるアナプラズマ症の本邦初の症例。2002～2003年の高知県で日本紅斑熱が疑われた18例の血餅から、2例で、A. phagocytophilumに特異的なp44/msp2外膜蛋白遺伝子群のPCR産物が検出された。	24
90117	2009/4/1	90003	レトロウイルス	第56回日本ウイルス学会学術集会(2008年10月27日)	日本国内の前立腺がん患者30例の血清のうち2例からGagに対する特異的抗体反応が認められ、そのうち1例からはXMRV(Xenotropic MuLV-related virus)核酸を検出した。また、献血者120例中5例でGagに対する特異的抗体反応が認められた。日本国内の前立腺がん患者集団中にもXMRV感染が存在することが示唆された。	25
90145	2009/5/1	90184	リケツチア症	Transfusion 2008; 48: 2177-2183	米国。ルーチンの細菌培養スクリーニングを実施したプール血小板の輸血を受けた患者が、C群連鎖球菌感染症により死亡した。遊及調査の結果、無症候性の供血者が原因と考えられた。現在の検査法の限界を示す報告。	26
90116	2009/3/30	81068	異型クローンツェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	CJDサーベイランス委員会による調査では1999年4月から2008年2月までの9年間に日本国内で1069例がプリオン病と判定された。うち孤発性CJDが821例(76.8%)、遺伝性プリオン病が171例(16.0%)、硬膜移植後CJD74例(6.9%)、変異型CJD1例(0.1%)、分類不能2例(0.2%)であった。日本のプリオン病別検率は欧米諸国より著明に低かった。孤発性CJDの病型は欧米に比べMM2型が多かったが、非典型型が多く割検されている可能性が考えられた。	
90116	2009/3/30	81068	異型クローンツェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日ポスター11	ウイルス除去膜濾過工程を含んでいる製剤(血液凝固第VIII因子製剤: プラノバ20N濾過、抗HBs入免疫グロブリン製剤: プラノバ35N濾過)について、263K株感染ハムスターより得たSUS処理PrPScを用いて、その除去効果を検証した。その結果、SUS処理PrPScは濾過膜の孔径よりも小さいにもかかわらず、プラノバ35Nやプラノバ20Nで除去された。PrPScが凝集したり、膜へ吸着したためと考えられる。	
90116	2009/3/30	81068	異型クローンツェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日ポスター18	スクレイビー263K株感染ハムスター脳乳剤を脳内接種したハムスターにおける血中PrPres経時変化を追跡したところ、PK抵抗性3F4反応性蛋白バンドは、感染後4～6週で認められ、10週ではほぼ消失した。発症末期では血中PrPresと見られる蛋白バンドは認められなかった。PrPresをマーカーとした血液検査は感染後発症前～発症中期までに限定される可能性が示唆された。	
90112	2009/3/27	81052	異型クローンツェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/Press Releases 2008年8月28日	Blood誌のprepublished onlineに掲載されたヒツジにおける研究によると、輸血によるBSE伝播のリスクは驚くほど高い。エジンバラ大学で行われた9年間の研究は、BSEまたはスクレイビーに感染したヒツジからの輸血による疾病伝播率を比較した。その結果、BSEおよびスクレイビーとも輸血によりヒツジに効率よく伝播された。症状を呈する前のドナーから採取された血液によっても伝播することが示された。	
90116	2009/3/30	81068	異型クローンツェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	ヒツジを用いた感染実験において、BSEは36%、スクレイビーは43%と予想以上に高い輸血伝播率を示した。高い伝播率および臨床的に陽性のレシビエントにおける比較的短期間の一定した潜伏期間は、血中の感染性力価が高いことおよびTSEが輸血により効率的に伝播することを示唆する。血液製剤によるヒトでのvCJD伝播を研究するために、ヒツジが有用なモデルであることが示された。	

90100	2009/3/19	81013	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2008; 134: 757-768	マウスPrPScと混合させることによって折り畳み異常が起こったハムスターPrP ^{Sc} は、野生型ハムスターに対して感染性を起こす新規なプリオンを生成した。同様の結果は、反対方向でも得られた。PMCA増幅を繰り返すとin vitro産生プリオンの順応が起こる。このプロセスは、in vivoでの連続継代に観察される株の安定化を暗示させる。種の壁と株の生成がPrP折り畳み異常の伝播によって決定されることが示唆される。	
90100	2009/3/19	81013	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	263Kスクレイパーの臨床症状を呈するハムスター22匹の尿にTSE感染性があることが示された。これらの動物の腎臓と膀胱のホモジネートは20000倍以上希釈してもTSE感染性があった。組織学的、免疫組織化学的分析では、腎臓における疾患関連PrPの散発的な沈着以外、炎症や病変は見られなかった。尿中のTSE感染性が、自然のTSEの水平感染に何らかの役割を果たす可能性がある。	
90118	2009/4/15	90068	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	vCJDと関連のない疾患で死亡し、生前にvCJD又は他の神経学的症状を示していなかった男性血友病患者の剖検時に、異常プリオンタンパクが確認された。この男性は、献血後にvCJDを発症したドナー血漿を含む原料から製造された第Ⅷ因子製剤を使用していた。	27
90144	2009/4/30	90183	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	1996年に血漿を提供し、その6か月後にvCJDを呈したドナーの血漿由来の第Ⅷ因子製剤を使用した血友病患者について、この度、検死によりvCJD感染が報告された。血漿分画製剤によるTSE伝播の可能性を示唆する初の報告である。	28
90138	2009/4/27	90149	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	J. Hosp. Infect 2009; 72: 65-70	新規のプリオン不活化法として、Bacillus lentusサブチリン遺伝子を変異させて得られたアルカリプロテナーゼ、MC3の報告。MC3はプロテナーゼKよりも高い分解能を示し、MC3消化の感染性マウス脳ホモジネート(IMBH)投与マウスの生存率は、非分解IMBH投与マウスと比較して極めて高かった。	29
90132	2009/4/24	90141	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	Lancet Neurology 2009; 8: 57-66	BSEプリオンに対するヒトの感受性についてSNPを解析した。PRNP遺伝子座はプリオン病のいくつかのマーカータと全てのカテゴリーを通じてリスクに強く関連していた。疾病リスクへの主な寄与はPRNP多型コドン129であったが、別の近傍のSNPによってvCJDのリスク増大がもたらされた。	30
90136	2009/4/27	90147	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	News-Medical.Net 2008 Dec 22	Amorfix Life Sciences社(カナダ)が開発した血漿中におけるvCJDプリオンタンパク質の検査法。脳ホモジネートを1/1,000,000まで希釈した検体を検出することが可能である。	31
90116	2009/3/30	81068	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e2878	野生型マウスおよびヒトPrPを発現しているトランスジェニックマウスに、輸血関連vCJD感染第1号症例由来の脳材料を接種し、輸血によるヒト-ヒト間の2次感染後のvCJD病原体の性質について調べた。その結果、潜伏期間、臨床症状、神経病理学的特徴およびPrP型について、vCJD(輸血)接種群はvCJD(BSE)接種群と類似していた。vCJD病原体は、ヒトにおける2次感染により、有意な変化が起こらないことが明らかとなった。	
90100	2009/3/19	81013	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	非定型BSE(BASE)に感染した無症候のイタリアの乳牛の脳ホモジネートをカニクイザルに脳内接種した。BASE接種サルは生存期間が短く、古典的BSEまたはvCJD接種サルとは異なる臨床的展開、組織変化、PrPresパターンを示した。感染牛と同じ国の孤発性CJD患者でPrPが異常なウエスタンプロットを示す4例のうち3例のPrPresに同じ生化学的特徴を認めた。BASEの置長類における高い病原性および見かけ上孤発性CJDである症例との関連の可能性が示唆された。	

90130	2009/4/24	90139	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	米国での古典的CJDを発症した供血者計35名に由来する血液成分の受血者430名の追及調査の結果、孤発性CJDが輸血で伝播する証拠は無く、リスクはvCJDと比較して有意に低かった。	32
90148	2009/5/22	90189	異型クローイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 96: 270	1995年から3回/週でIVIIG治療を受けていた61歳女性には、1997年1月～1998年2月の期間に、後にvCJDを発症した供血者由来の製剤を使用していた。この女性の死亡後、剖検により脾臓、リンパ節、脳内のプリオン蛋白を検査したが、検出されなかった。	33
90145	2009/5/1	90184	感染	BMJ 2008; 337: a2622	欧州における2006年の感染症の発生報告はクラミアが最も多く、以下、ランブル線毛虫症、カンピロバクター症、サルモネラ症、結核、流行性耳下腺炎、淋病、C型肝炎、侵襲性肺炎球菌疾患、HIVの順であった。	34
90145	2009/5/1	90184	感染	http://www.fda.gov/ocber/blood/fatal07.pdf.	2007年度のCBERに報告された供血後及び輸血後の死亡例概要。受血者76件、供血者17件の死亡報告。受血者死亡の内訳は、52件が輸血関連のもの、11件が輸血関連性否定できないもの、13件が輸血と関連しないものであった。	35
90145	2009/5/1	90184	寄生虫感染	AABB Annual Meeting and TXPO 2008-2	輸血を介したバベシア症死亡例の報告。1998年の1例以降しばらく無かったが、2006年1～10月にはFDAに5例が報告された。生物学的製品逸脱報告サマリーでは、過去10年間にバベシア症関連報告が68件あり、近年この報告が増加傾向にあることは、バベシア症伝播に係る輸血関連リスクが増加していることを示している。	36
90100	2009/3/19	81013	狂犬病	ProMED-mail20080826.2660	1990年から2007年の中国における狂犬病発生傾向を調べた研究によると、最近8年間でヒト狂犬病症例数が急激に増加したことが明らかとなった。ヒト狂犬病は1990年から1996年の間は全国的な狂犬病ワクチン接種プログラムにより抑制され、わずか159症例が報告されただけであるが、2006年は3279症例と激増した。	
90145	2009/5/1	90184	細菌感染	Am J Infect Control 2008; 36: 602	減量法として両耳の上部耳介軟骨にステープル治療(Stapling)を受けた16歳の女性が、2週間後に左耳の鼓膜周囲の紅斑および圧痛を呈した。膿瘍ドレナージ検体の培養および感受性試験の結果、両耳で著しい緑膿菌の生育が認められた。21日間の経口シプロフロキサシン投与により回復した。外耳軟骨は、血流に乏しく特に感染しやすい。耳鏡が危険な緑膿菌感染を起こす可能性があることを医師は認識するべきである。	
90097	2009/3/26	80995	細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	米国ミネソタ州の68歳男性が、2007年10月12～21日に手術後の輸血を受け、敗血症および多臓器不全をきたした後、10月31日に発熱を伴う急性血小板減少症を発現し、11月3～5日の血液検体からPCR及び抗体検査でアナプラズマ症感染が確認された。血液ドナーの1人にA. phagocytophilum陽性がPCR及びIFA検査で確認され、血液ドナーに感染源が確認された初の事例となった。	
90145	2009/5/1	90184	細菌感染	Transfusion 2008; 48: 2348-2355	全血血小板の細菌汚染リスクを低減させるためには、初流血除去及び細菌培養によるスクリーニングが有効な方法であることを示す報告。	37
90132	2009/4/24	90141	真菌感染	CDC/MMWR 2009; 58: 105-109	カリフォルニア州におけるコクシジオイデス症の報告数及び入院数は2000～2006年の間毎年増加しており、2007年に減少した。アリゾナ州は毎年米国のコクシジオイデス症全体の約60%を占めており、1999年の1,812例(37/10万人)から2006年の5,535例(91/10万人)と実質的な増加を示した。米国全体では、1996年の1,697例から2006年の8,917例と増加した。	38